

読谷

中学校

平和のためにできること

読谷中学校 一年 大川内 颯来

私は、四月から、中学一年生になりました。最初は、中学校生活に慣れず、心配なこともありました。でも、今では友達もたくさんできて、勉強と部活で充実した、楽しい毎日を送っています。私たちにあって、学校へ行き、勉強し、友達と遊び、ご飯を食べる毎日は当たり前です。

でも、このような当たり前のことができず、

今よりもずっと不便で、毎日命の危険にさらされています。一九四五年四月一日、米軍が沖縄本島に上陸しました。そして、この日から沖縄本島での激しい戦闘が始まりました。そのとき、大人だけでなく、男女中等学校の生徒も戦場に動員されました。そして、男子は鉄血勤皇隊を、女子はひめゆり学徒隊を結成しました。

鉄血勤皇隊は、十四と十七歳の男子中学生を中心とした学徒隊で、爆雷を背負って戦車

読谷

中学校

に体当たりする「斬り込み攻撃」などをして  
いました。不十分な装備のまま、任務を行っ  
ていたため、犠牲者は八九〇人にもおよびま  
した。  
ひめゆり学徒隊は、十三〜十九歳の女子中  
高生で編成されていて、主に壕の中で負傷兵  
の看護や死体の埋葬を行っていました。しか  
し、壕の入口にガス弾や手榴弾が落ちたり、  
自決したりして生徒二二人中一二三人が命  
を落としました。

私は、鉄血勤皇隊やひめゆり学徒隊のよう  
に、私と同じ中学生くらいの人たちが戦争に  
よって命を落としていることに、とてもショ  
ックを受けました。「この人たちも、死にたく  
くて死んだんじゃないの。この先、輝く未  
来が待っていたのに。」そう考えると、より戦  
争の残酷さ、悲惨さを感じました。  
今、私たちは幸せです。一日三食のご飯を  
食べることに、学行へ行くことに、友達がいるこ  
と、そして、家族がいることは、私たちにと

読谷

中学校

って当たり前です。でも、まだ、このようなことが当たり前ではない国、十分な食事がとれず、教育も受けることができない、恵まれない環境におかれている国もあります。

私は、自分がおかれている環境に感謝し、恵まれない環境におかれている人たちの少しでもためになることをやっぺいこうと思います。例えば、募金箱を見つけたら、できるはんに、少しでも募金をすることや、好き

嫌いせず、ご飯を残さないうで食べることなどで、また、私のお母さんやお父さんは、県外出身なので、沖縄戦のことをよく知りません。そういう人たちに、沖縄戦で起こった悲劇を伝え、理解してもらおうことも大切です。戦争経験者が少なくなってきた今だからこそ、次世代の人たちに戦争を伝えていく役割は、私たちが担っていかねければならないと思います。平和を築いていくことにつながると感じました。このようなことをする人が一人でも増え

読谷

中学校

れば、世界の環境はどんどん良くなっていく  
と思います。

世界の人人全員が幸せになるその日まで、  
私は、私にできることを少しずつやっていき  
たいです。